

# 【土質基礎研究委員会 地盤防災分科会 現場視察報告書】

## 1 現場視察場所・行程

- (1) 場所：国道 274 号 日勝峠（日高側），KP129～KP154 L=25km
- (2) 日時：平成 28 年 11 月 10 日、12：00～15：00

## 2 現場説明者・参加者

- (1) 説明者：山梨高裕（北海道開発局室蘭開発建設部 次長）
- (2) 参加者：石川達也、中辻栄慎、橋本和明、林啓二、松田圭大、峯岸邦行、山木正彦  
(五十音順 敬称略)

## 3 災害および視察の概要

### 3.1 被災概要

平成 28 年 8 月 17 日～23 日の 1 週間に 7 号、11 号、9 号の 3 個の台風が続々と北海道に上陸し、北海道東部を中心に大雨により河川の氾濫や土砂災害が発生した。さらに 8 月 29 日から前線および台風 10 号の影響で、日勝峠周辺等にて局地的に猛烈な雨（観測史上 1 位）が降り、降り始めからの雨量は 488mm を記録した。

日勝峠（R274）では台風 10 号の影響により、落橋等による橋梁損傷が 10 箇所、雪崩・地吹雪対策用の覆道の損傷が 3 箇所、道路本体が大きく欠損した箇所が 6 箇所等、合計 66 箇所の被災が確認された。これらの被災に伴う通行止めの延長は 43.8km（平成 28 年 11 月 10 日現在では 39.5km）に渡った。

### 3.2 視察の概要

視察は、日勝峠の山頂付近にある三国の沢覆道（図 1 の番号 29）から日高側（札幌方面）に向けて開始した。

写真 1-1 は視察当日の被災した三国の沢覆道の様子である。当該部は沢を埋める形で盛土が構築されて



図 1 視察箇所等

室蘭開発建設部資料（平成 28 年 11 月 29 日報道提供資料）より抜粋

おり、大雨により盛土部が洗掘されたようである。被災時の状況を写真 1-2、1-3 に、被災前の状況を写真 1-4 に示す。なお視察時には洗掘された箇所に土砂が投入され、重機等の通行のための仮道が整備されつつあった。

→ 図 1 番号 29



写真 1-1 三国の沢覆道（視察時）



写真 1-2 三国の沢覆道（被災直後）



写真 1-3 三国の沢覆道（遠景：被災直後）



写真 1-4 三国の沢覆道（遠景：被災前）

写真 2-1 は盛土のり面の表層崩壊の様子である。当該箇所は（山頂側から）緩やかにカーブした出口にあたり、道路の表面水が集中した結果と考えられる（写真 2-2 は被災直後の遠景）。

→ 図 1 番号 26



写真 2-1 盛土のり面表層崩壊（視察時）



写真 2-2 盛土のり面表層崩壊（遠景：被災直後）

写真 3-1 は河川の著しい増水により洗掘を受けた道路盛土の視察時の様子である。2 車線が洗掘により欠損したが、緊急復旧により 1 車線が確保された状況である。写真 3-2、3-3 は当該現場の被災前後の様子である。これらの写真から、大雨による河川増水の規模がうかがい知れる。

→ 図 1 番号 20



写真 3-1 道路盛土の洗掘による被災（視察時）



写真 3-2 道路盛土の洗掘による被災（遠景：被災直後）

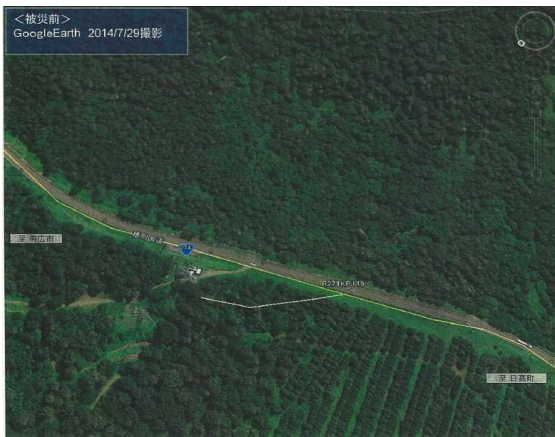


写真 3-3 被災前の状況（遠景：被災前）

写真 4-1、4-2 はニセクシュマナイ橋の橋台背面および盛土が洗掘により欠損した様子である。視察時は復旧作業が行われていた。被災前後の状況（写真 4-3、4-4）から著しい河川の増水が確認される。

→ 図 1 番号 11



写真 4-1 橋台背面・盛土の洗掘（視察時）



写真 4-2 橋台背面・盛土の洗掘（被災直後）



写真 4-3 橋台背面・盛土の洗掘（遠景：被災直後）



写真 4-4 橋台背面・盛土の洗掘（遠景：被災前）

写真 5-1、5-2 は洗掘を受けた覆道の視察時と被災直後の状況、写真 5-3、5-4 は同覆道直近の擁壁の視察時と被災直後の状況である。土嚢や盛土により応急復旧がなされていた。

→ 図 1 番号 10



写真 5-1 洗掘を受けた覆道（視察時）



写真 5-2 洗掘を受けた覆道（被災直後）



写真 5-3 洗掘を受けた擁壁（視察時）



写真 5-4 洗掘を受けた擁壁（被災直後）

写真 6-1 は洗掘を受けた盛土の視察時の状況である。盛土が復旧され、走行に支障はない。被災前後の状況（写真 6-2、6-3、6-4）から著しい河川の増水が確認される。

→ 図 1 番号 8



写真 6-1 洗掘を受けた盛土（視察時）



写真 6-2 洗掘を受けた盛土（被災直後）



写真 6-3 洗掘を受けた盛土（遠景：被災直後）



写真 6-4 洗掘を受けた盛土（遠景：被災前）

写真 7-1、7-2 は視察時の千呂露橋の状況である。仮橋が設置され、架け替え工事が並行して進められていた。被災前後の状況（写真 7-3、7-4、7-5）から著しい河川の増水が確認される。

→ 図 1 番号 1



写真 7-1 千呂露橋の復旧工事（視察時）



写真 7-2 仮橋（視察時）



H28.8.31撮影

写真 7-3 被災直後の千呂露橋①



写真 7-4 被災直後の千呂露橋②（遠景）



写真 7-5 被災前の千呂露橋（遠景）

現地視察に際して、北海道開発局室蘭開発建設部の山梨高裕次長（視察当時）には現地での資料及び説明等多大なるご協力を頂きました。ここに謝意を表します。

（文責 寒地土木研究所 山木正彦）